第 10 期「まちづくり大学」グループワークの議事録C 班ファシリテーター (上谷元忠)

参加者	小川 生美子、高木 伸哉、丸山 晃子、平野 博義
	竹村 宏之
	発表役(小川 生美子)

	地域デビュー(ボランティア)	
小川	への気づき・目覚め 主婦の目線から、ボランティアを 10年以上やってきた。	問題点・障害など又は取組みテーマ 今まで、自分なりに 地域で活動を続けて きたが、行政としての経済的な応援を期待 したい。
高木	今年、都市整備部 都市計画グループの市職員に採用され、民間企業歴数年の経験を生かして日々仕事に取り組んでいる。	時間的にも余裕がないのであまり活動できないが、やれる範囲で自分の今までの経験を生かして取り組んでいきたい。
丸山	大阪狭山市へ引っ越してきてまだあまり年月(2年)がたっていないが、身近なことで、自分にもできることを考えやっている。	周りで、様々なボランティア活動を見ているが、自分が出来る小さなことや単発でも やっていきたい。時間的な制約が一番課題 になっている。
平野	小学生から大人まで多種多様な方を対象に紙芝居等を通して、長年ボランティア活動を実践してきた中で、経費と時間のことが課題である。ボランティア活動にかかる、最低限度の、交通費・材料製作費等の負担があるが、それをいかにして克服し、継続したものにしていくかが課題である。	行政から、金銭的な補助として、市民活動に 条件を満たせば(書類を提出して)補助金が出る制度の活用もあるが、少し面倒な書類を書式につたがって提出しなければいけない労力があり、あまり活用していない。各地域によって、防災やごみに対する考え方に格差があり、大阪狭山市の行政は近隣の他市に比較して金銭面や取り組み方法に課題が多いと思う。
竹村	狭山に5年前に引っ越してきが、 自分の思いとしては、行政として ボランティアを育てる視点がほ しい。	小規模なボランティア活動にも、3~5万円程度の補助金制度の活用で、継続したものができればありがたい。 勤務があるので、参加できるボランティア活動に時間的な制約がある。まち研の活動日が平日に多いので、現状 参加が難しい。

話合いの概要	まず、はじめに まちづくり大学とその後の活躍・活動の場である まちづくり研究会の概要を説明した。この会が、まちづくり研究会への入会のきっかけとなることをも狙って実施していることもあることを説明した。各自の 自己紹介をしていくことで、互いの ことが分かり合える中で、各自が捉える、ボランティア活動についての考えや思い・問題を発表する中でどのようなことがこれからの課題となるかを発表してもらった。そして、どのようにして、その課題を克服していくか話し合った。
発表内容	地域デビューとしてのボランティア活動について 課題として①時間の確保と参加しやすい環境整備 ②交通費・材料費等の最低限の保障がほしい ③継続して取り組むことの難しさ 活動経費や時間的な制約のある中で、各自が制約に縛られない無理をしない 範囲で、継続して活動していくことが重要である。今後、さらなる地域デビューを果たし、より充実した新しい発見や出会いととらえたい。
感想	当グループには、若い女性から、すでに かなりボランティア活動歴のある 方とバランスよく老若男女がそろっていることで、幅広い意見・考えを交換 することができた。ボランティア活動を、今後 充実していくためには、各自のできる範囲で無理をしないで、小さなことから、根気よく続けていくことが大切で、これからの まちづくり研究会には、活動できる日に一度体 験参加することで、今後続けていくことができるか判断をし、当グループの参加者の中から、やる気になった多くの「まち研仲間」の誕生することを願います。

その他感想記入

講座を振り返っての意見・感想として

各自の意見・考えを発表するだけで、かなりの時間がかかり、ポイントを絞っての意見 交換ができれば、もっと深みのあるグループワークになったかと反省している。この会合 を機会に、多くの新しい出会いが誕生することを願っています。